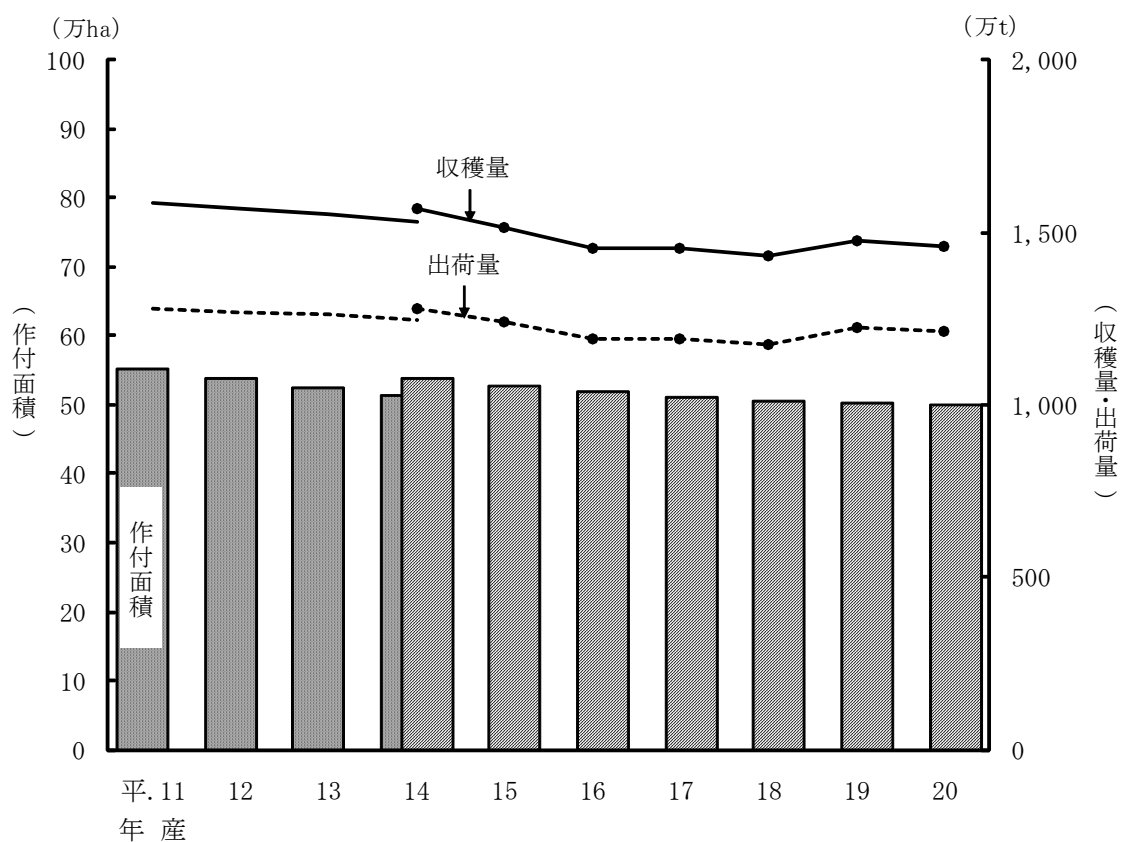


1 要 旨

平成20年産の野菜（39品目）の作付面積は50万700ha、収穫量は1,462万2,000 t、出荷量は1,213万5,000 tであった。

図1 野菜の作付面積、収穫量及び出荷量




注：平成14年産から葉茎菜類8品目（こまつな、ちんげんさい、ふき、みつば、アスパラガス、しゅんぎく、にら及びにんにく）、果菜類1品目（そらまめ）及び香辛野菜（しょうが）を新たに追加し、39品目となったため、図中、平成14年産については29品目で再集計して過去3年間と同様に表し、平成14年産以降、39品目計の作付面積を「」、収穫量及び出荷量を「・」で表した。

表1 平成20年産野菜の作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作 付 面 積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量 対 比
					作付面積	10a当たり 収 量	収穫量	出荷量	
	ha	kg	t	t					%
計	500 700	-	14 622 000	12 135 000	99	-	99	99	-
根 菜 類	181 200	-	5 753 000	4 656 000	98	-	97	97	-
だいこん	36 600	4 380	1 603 000	1 250 000	98	100	99	99	103
かぶ	5 280	3 010	159 100	128 600	99	101	100	100	103
にんじん	19 300	3 400	656 800	577 100	101	97	99	99	105
ごぼう	8 980	1 860	167 200	140 300	102	101	103	103	103
れんこん	4 010	1 580	63 300	52 700	99	110	109	112	106
ばれいしょ (じゃがいも)	84 900	3 230	2 743 000	2 251 000	97	98	95	95	98
さいとうもろこし	14 000	1 280	179 700	110 200	99	104	104	106	104
やまのいも	8 050	2 250	181 200	146 300	98	97	95	95	102
葉 茎 菜 類	179 900	-	5 457 000	4 644 000	100	-	101	101	-
はくさい	18 600	4 950	921 400	711 400	99	101	100	101	105
こまつな	5 840	1 630	95 000	79 600	102	101	102	103	100
キャベツ	33 000	4 210	1 389 000	1 208 000	101	101	102	102	103
ちんげんさい	2 410	2 090	50 300	43 800	103	100	103	103	99
ほうれんそう	22 500	1 300	292 700	238 300	98	100	98	99	100
ふき	716	2 180	15 600	12 800	97	100	96	96	93
みつば	1 170	1 500	17 500	16 300	97	102	98	98	102
しゅんぎく	2 380	1 630	38 800	31 200	98	99	96	97	99
セルリー	657	5 210	34 200	32 400	98	99	97	97	101
アスパラガス	6 540	471	30 800	26 500	100	99	99	99	106
カリフラワー	1 360	1 800	24 500	19 700	96	100	96	97	98
ブロッコリー	12 700	1 080	136 900	120 800	107	103	110	110	105
レタス	20 600	2 640	544 300	510 700	99	102	100	100	104
ねぎ	23 000	2 220	510 200	400 300	102	101	103	104	103
にら	2 240	2 920	65 300	58 900	104	99	102	102	100
たまねぎ	24 100	5 270	1 271 000	1 121 000	99	101	100	100	107
んにく	2 050	961	19 700	12 300	101	102	103	100	99
果 菜 類	109 700	-	2 560 000	2 091 000	100	-	100	100	-
きゅうり	12 500	5 020	627 400	527 900	98	100	98	98	101
かぼちゃ	18 000	1 350	242 800	187 100	105	102	106	108	99
なす	10 600	3 450	365 900	273 300	98	100	98	98	101
トマト	12 500	5 860	732 800	648 300	98	99	98	98	100
ピーマン	3 460	4 340	150 300	129 200	99	102	100	101	105
スイートコーン	25 800	1 030	266 000	208 400	101	103	104	105	106
さやいんげん	7 030	724	50 900	32 200	100	104	104	105	102
さやえんどう	4 310	664	28 600	18 000	98	106	104	104	107
そらまめ	2 450	861	21 100	15 000	97	101	98	99	103
えだまめ	13 000	571	74 200	51 800	102	103	104	106	98
香 辛 野 菜									
しょうが	1 920	2 590	49 800	37 600	103	114	117	121	120
果 実 的 野 菜	28 000	-	801 200	706 100	98	-	96	96	-
いちご	6 470	2 950	190 700	173 000	98	101	100	100	104
メロン	9 210	2 260	208 500	189 500	97	97	94	94	99
すいか	12 300	3 270	402 000	343 600	98	98	95	95	99

2 指定野菜の品目別の概要

(1) だいこん

ア 作付面積

作付面積は3万6,600haで、前年産に比べて600ha(2%)減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は4,380kgで、前年産並みとなった。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は160万3,000tで、前年産に比べて2万3,000t(1%)減少した。

出荷量は125万tで、前年産に比べて8,000t(1%)減少した。

エ 季節区別の概況

(ア) 春だいこんの作付面積は5,010haで、前年産並みとなった。

10a当たり収量は5,010kgで、前年産に比べて2%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は25万800tで、前年産に比べて3,800t(2%)増加し、出荷量は22万2,100tで、前年産に比べて4,300t(2%)増加した。

(イ) 夏だいこんの作付面積は7,150haで、前年産に比べて250ha(3%)減少した。これは、生産者の高齢化に伴う規模縮小等があったためである。

10a当たり収量は3,620kgで、前年産に比べて1%下回った。

この結果、収穫量は25万8,900tで、前年産に比べて1万1,200t(4%)減少し、出荷量は23万tで、前年産に比べて9,600t(4%)減少した。

(ウ) 秋冬だいこんの作付面積は2万4,500haで、前年産に比べて300ha(1%)減少した。

10a当たり収量は4,460kgで、前年産並みとなった。

この結果、収穫量は109万3,000tで、前年産に比べて1万6,000t(1%)減少し、出荷量は79万7,700tで、前年産並みとなった。

図2 だいこんの作付面積及び収穫量の推移

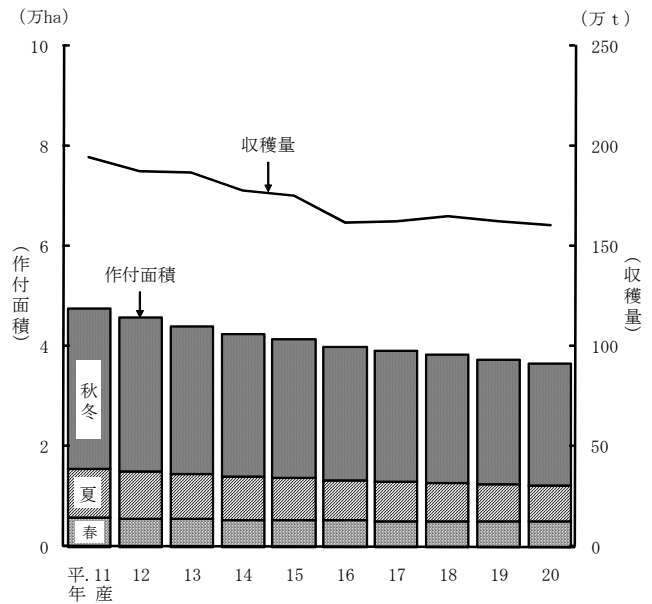


表2 平成20年産だいこんの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	前年産対比(%)				(参考)平均収量対比
					作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	
だいこん	ha	kg	t	t					%
	36 600	4 380	1 603 000	1 250 000	98	100	99	99	103
春	5 010	5 010	250 800	222 100	100	102	102	102	105
夏	7 150	3 620	258 900	230 000	97	99	96	96	104
秋冬	24 500	4 460	1 093 000	797 700	99	100	99	100	103

(2) にんじん

ア 作付面積

作付面積は1万9,300haで、前年産に比べて200ha(1%)増加した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は3,400kgで、前年産に比べて3%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は65万6,800tで、前年産に比べて9,100t(1%)減少した。

出荷量は57万7,100tで、前年産に比べて7,700t(1%)減少した。

エ 季節区分別の概況

(ア) 春夏にんじんの作付面積は4,320haで、前年産に比べて60ha(1%)増加した。

10a当たり収量は3,660kgで、前年産に比べて3%下回った。これは、価格が堅調であったため、徳島県等で前年産より早めに収穫したことなどがあったためである。

この結果、収穫量は15万7,900tで、前年産に比べて2,500t(2%)減少し、出荷量は14万2,700tで、前年産に比べて2,400t(2%)減少した。

(イ) 秋にんじんの作付面積は6,590haで、前年産並みとなった。

10a当たり収量は3,380kgで、前年産に比べて2%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は22万2,500tで、前年産に比べて4,000t(2%)増加し、出荷量は19万6,800tで、前年産に比べて3,900t(2%)増加した。

(ウ) 冬にんじんの作付面積は8,360haで、前年産に比べ100ha(1%)増加した。

10a当たり収量は3,310kgで、前年産に比べて5%下回った。これは、千葉県や宮崎県等では種後の大雨による発芽不良や種子流出、その後の天候不順などにより生育が抑制されたことなどがあったためである。

この結果、収穫量は27万6,400tで、前年産に比べて1万400t(4%)減少し、出荷量は23万7,700tで、前年産に比べて9,000t(4%)減少した。

図3 にんじんの作付面積及び収穫量の推移

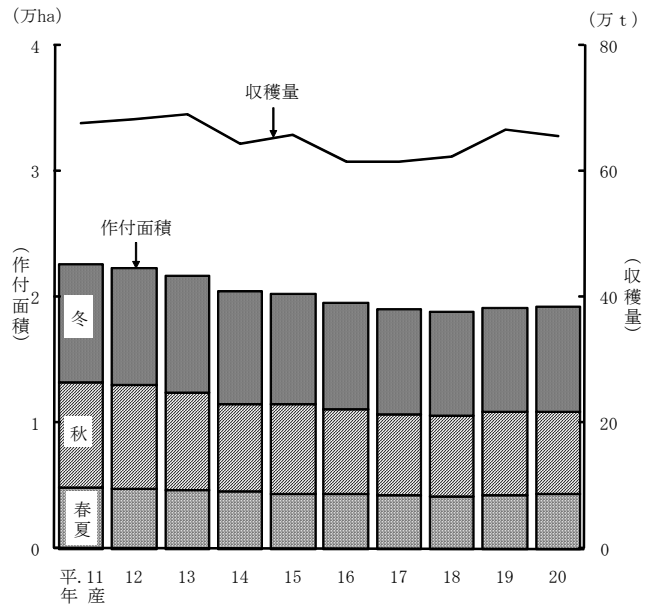


表3 平成20年産にんじんの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	前年産対比(%)				(参考)平均収量対比
					作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	
にんじん	ha	kg	t	t					%
	19 300	3 400	656 800	577 100	101	97	99	99	105
春夏	4 320	3 660	157 900	142 700	101	97	98	98	102
秋	6 590	3 380	222 500	196 800	100	102	102	102	110
冬	8 360	3 310	276 400	237 700	101	95	96	96	102

(3) ばれいしょ (じゃがいも)

ア 作付面積

作付面積は8万4,900haで、前年産に比べて2,500ha (3%) 減少した。

イ 10 a 当たり収量

10 a 当たり収量は3,230kgで、前年産に比べて2%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は274万3,000 t で、前年産に比べて13万 t (5%) 減少した。

出荷量は225万1,000 t で、前年産に比べて11万9,000 t (5%) 減少した。

エ 季節区別の概況

(ア) 春植えばれいしょの作付面積は8万2,000haで、前年産に比べて2,500ha (3%) 減少した。これは、生産者の高齢化に伴う規模縮小等があったためである。

10 a 当たり収量は3,290kgで、前年産に比べて2%下回った。これは、7月の日照不足や8月～9月の少雨の影響により小玉傾向となったためである。

この結果、収穫量は269万7,000 t で、前年産に比べて13万1,000t (5%) 減少し、出荷量は221万8,000 t で、前年産に比べて12万2,000 t (5%) 減少した。

(イ) 秋植えばれいしょの作付面積は2,870haで、前年産に比べて20ha (1%) 減少した。

10 a 当たり収量は1,610kgで、前年産に比べて5%上回った。これは、主産地の長崎県において、干ばつの影響を受けた昨年産に比べ、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は4万6,100tで、前年産に比べて1,700 t (4%) 増加し、出荷量は3万3,000 t で、前年産に比べて2,500 t (8%) 増加した。

図4 ばれいしょ (じゃがいも) の作付面積及び収穫量の推移

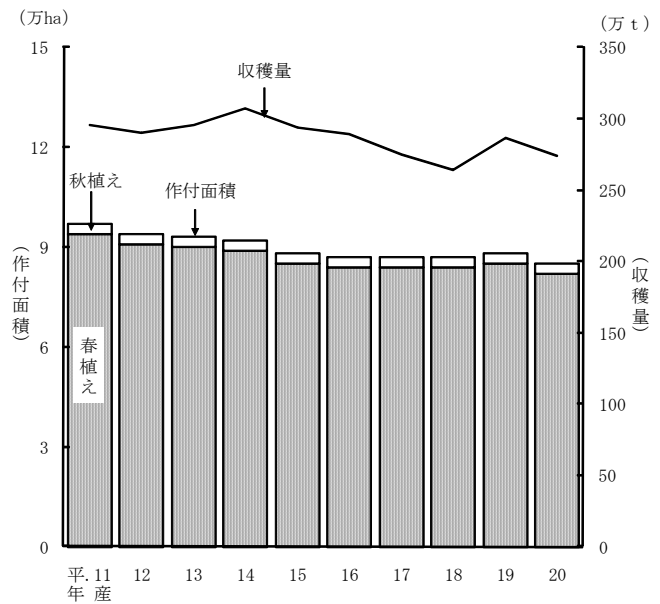


表4 平成20年産ばれいしょ(じゃがいも)の作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作付面積	10 a 当たり収	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量対比
					作付面積	10a 当たり収	収 穫 量	出 荷 量	
ばれいしょ (じゃがいも)	ha	kg	t	t					%
	84 900	3 230	2 743 000	2 251 000	97	98	95	95	98
春植え	82 000	3 290	2 697 000	2 218 000	97	98	95	95	99
秋植え	2 870	1 610	46 100	33 000	99	105	104	108	103

(4) さといも

ア 作付面積

作付面積は1万4,000haで、前年産に比べて100ha（1%）減少した。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は1,280kgで、前年産に比べて4%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は17万9,700tで、前年産に比べて6,500t（4%）増加した。

出荷量は11万200tで、前年産に比べて5,900t（6%）増加した。

エ 季節区分別の概況

秋冬さといもの作付面積は1万4,000haで、前年産に比べて100ha（1%）減少した。

10a 当たり収量は1,280kgで、前年産に比べて4%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は17万9,400tで、前年産に比べて6,600t（4%）増加し、出荷量は11万tで、前年産に比べて5,900t（6%）増加した。

図5 さといもの作付面積及び収穫量の推移

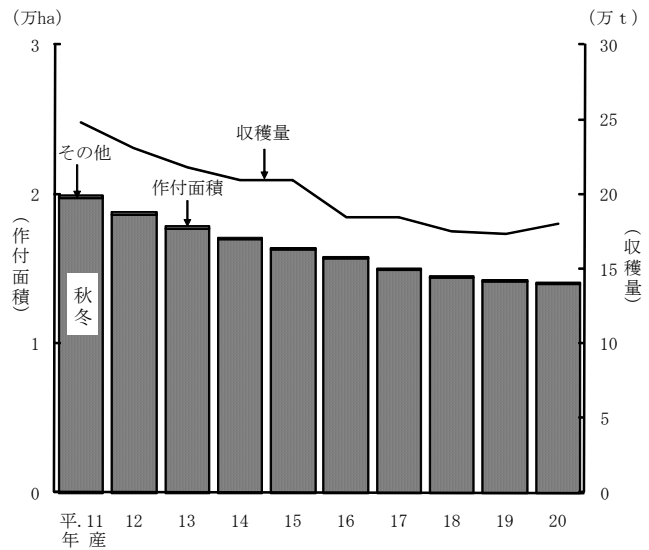


表5 平成20年産さといもの作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作付面積	10a 当たり収	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量対比
					作付面積	10a 当たり収	収 穫 量	出 荷 量	
さといも	ha	kg	t	t					%
	14 000	1 280	179 700	110 200	99	104	104	106	104
うち秋冬	14 000	1 280	179 400	110 000	99	104	104	106	104

(5) はくさい

ア 作付面積

作付面積は1万8,600haで、前年産に比べて100ha（1%）減少した。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は4,950kgで、前年産に比べて1%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は92万1,400tで、前年産並みとなった。

出荷量は71万1,400tで、前年産に比べて6,700t（1%）増加した。

エ 季節区別の概況

(ア) 春はくさいの作付面積は1,810haで、前年産に比べて40ha（2%）減少した。これは、長野県等で他野菜への転換などがあったためである。

10a 当たり収量は5,830kgで、前年産に比べて1%上回った。

この結果、収穫量は10万5,600tで、前年産に比べて1,200t（1%）減少し、出荷量は9万4,700tで、前年産並みとなった。

(イ) 夏はくさいの作付面積は2,830haで、前年産に比べて20ha（1%）減少した。

10a 当たり収量は6,270kgで、前年産並みとなった。

この結果、収穫量は17万7,300tで、前年産並みとなり、出荷量は15万7,200tで、前年産に比べて3,300t（2%）減少した。

(ウ) 秋冬はくさいの作付面積は1万4,000haで、前年産並みとなった。

10a 当たり収量は4,560kgで、前年産に比べて1%上回った。

この結果、収穫量は63万8,500tで、前年産に比べて5,600t（1%）増加し、出荷量は45万9,400tで、前年産に比べて1万100t（2%）増加した。

図6 はくさいの作付面積及び収穫量の推移

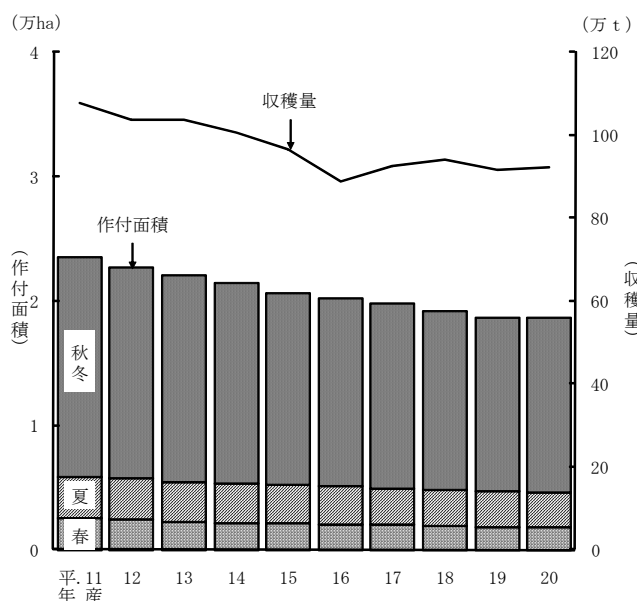


表6 平成20年産はくさいの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a 当たり収	収穫量	出荷量	前年産対比(%)				(参考) 平均収量対比
					作付面積	10a 当たり収	収穫量	出荷量	
はくさい	ha	kg	t	t					%
	18 600	4 950	921 400	711 400	99	101	100	101	105
春	1 810	5 830	105 600	94 700	98	101	99	100	101
夏	2 830	6 270	177 300	157 200	99	100	100	98	106
秋冬	14 000	4 560	638 500	459 400	100	101	101	102	105

(6) キャベツ

ア 作付面積

作付面積は3万3,000haで、前年産に比べて300ha（1%）増加した。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は4,210kgで、前年産に比べて1%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は138万9,000tで、前年産に比べて3万t（2%）増加した。

出荷量は120万8,000tで、前年産に比べて2万5,000t（2%）増加した。

エ 季節区分別の概況

(ア) 春キャベツの作付面積は8,840haで、前年産に比べて130ha（1%）増加した。

10a 当たり収量は4,120kgで、前年産に比べて2%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は36万4,000tで、前年産に比べて1万3,100t（4%）増加し、出荷量は31万6,900tで、前年産に比べて1万3,100t（4%）増加した。

(イ) 夏秋キャベツの作付面積は1万200haで、前年産に比べて200ha（2%）増加した。これは、岩手県、長野県等において他野菜からの転換があったためである。

10a 当たり収量は4,520kgで、前年産に比べて2%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は46万1,100tで、前年産に比べて1万9,900t（5%）増加し、出荷量は39万9,400tで、前年産に比べて1万4,400t（4%）増加した。

(ウ) 冬キャベツの作付面積は1万4,000haで、前年産に比べて100ha（1%）増加した。

10a 当たり収量は4,030kgで、前年産に比べて1%下回った。

この結果、収穫量は56万3,500tで、前年産に比べて3,300t（1%）減少し、出荷量は49万1,700tで、前年産に比べて2,600t（1%）減少した。

図7 キャベツの作付面積及び収穫量の推移

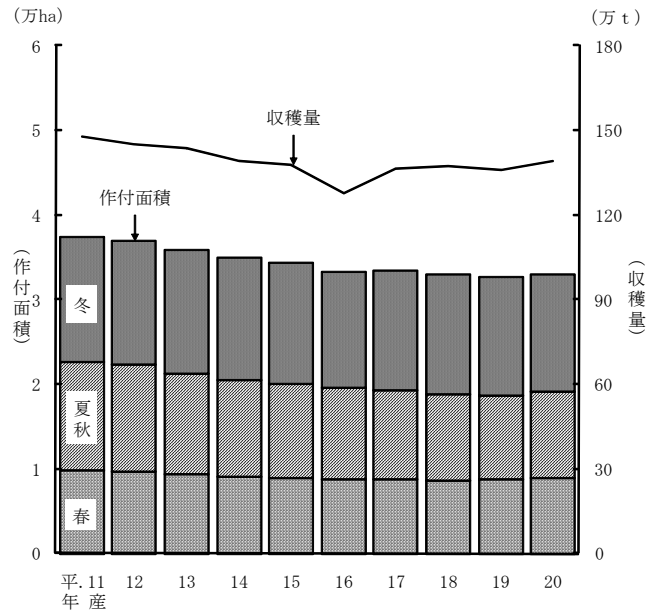


表7 平成20年産キャベツの作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作付面積	10a 当たり収	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量 対 比
					作付面積	10a 当たり収	収 穫 量	出 荷 量	
キャベツ	ha	kg	t	t					%
春	8 840	4 120	364 000	316 900	101	102	104	104	102
夏 秋	10 200	4 520	461 100	399 400	102	102	105	104	110
冬	14 000	4 030	563 500	491 700	101	99	99	99	100

(7) ほうれんそう

ア 作付面積

作付面積は2万2,500haで、前年産に比べて400ha（2%）減少した。これは、生産者の高齢化に伴う規模縮小等があったためである。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は1,300kgで、前年産並みとなった

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は29万2,700 t で、前年産に比べて5,500 t（2%）減少した。

出荷量は23万8,300 t で、前年産に比べて3,600 t（1%）減少した。

図8 ほうれんそうの作付面積及び収穫量の推移

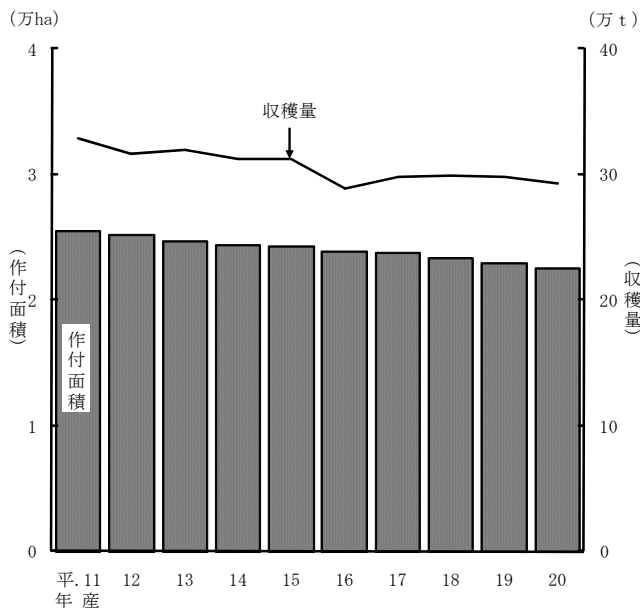


表8 平成20年産ほうれんそうの作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量 対 比
					作付面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	
ほうれんそう	ha 22 500	kg 1 300	t 292 700	t 238 300	98	100	98	99	% 100

(8) レタス

ア 作付面積

作付面積は2万600haで、前年産に比べて300ha（1%）減少した。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は2,640kgで、前年産に比べて2%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は54万4,300t、出荷量は51万700tで、ともに前年産並みとなった。

エ 季節区別の概況

(ア) 春レタスの作付面積は4,270haで、前年産並みとなった。

10a 当たり収量は2,840kgで、前年産に比べて6%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は12万1,100tで、前年産に比べて7,800t（7%）増加し、出荷量は11万2,700tで、前年産に比べて7,500t（7%）増加した。

(イ) 夏秋レタスの作付面積は8,520haで、前年産に比べて80ha（1%）減少した。

10a 当たり収量は2,790kgで、前年産に比べて1%上回った。

この結果、収穫量は23万7,400t、出荷量は22万7,100tで、ともに前年産並みとなった。

(ウ) 冬レタスの作付面積は7,800haで、前年産に比べて250ha（3%）減少した。これは、生産者の高齢化に伴う規模縮小等があったためである。

10a 当たり収量は2,380kgで、前年産に比べて1%下回った。

この結果、収穫量は18万5,800tで、前年産に比べて7,800t（4%）減少し、出荷量は17万900tで、前年産に比べて7,300t（4%）減少した。

図9 レタスの作付面積及び収穫量の推移

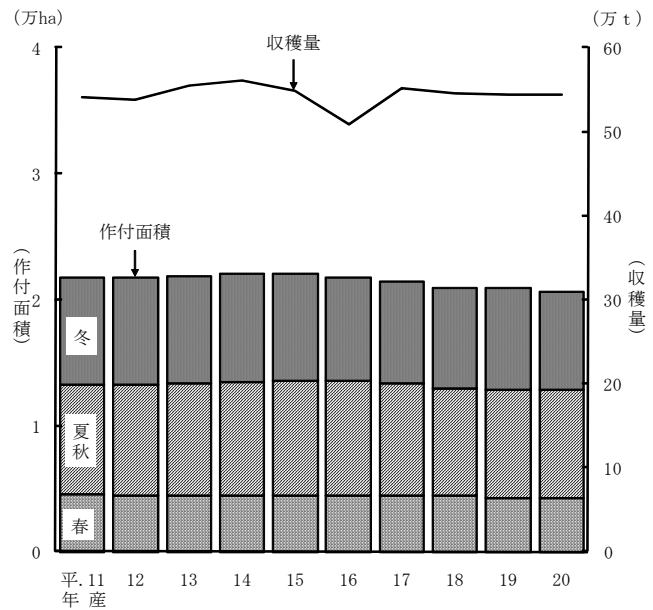


表9 平成20年産レタスの作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作付面積	10a 当たり収	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量対比
					作付面積	10a 当たり収	収 穫 量	出 荷 量	
レ タ ス	ha	kg	t	t					%
	20 600	2 640	544 300	510 700	99	102	100	100	104
春	4 270	2 840	121 100	112 700	100	106	107	107	105
夏 秋	8 520	2 790	237 400	227 100	99	101	100	100	104
冬	7 800	2 380	185 800	170 900	97	99	96	96	103

(9) ねぎ

ア 作付面積

作付面積は2万3,000haで、前年産に比べて500ha(2%)増加した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は2,220kgで、前年産に比べて1%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は51万200tで、前年産に比べて1万5,400t(3%)増加した。

出荷量は40万300tで、前年産に比べて1万4,400t(4%)増加した。

エ 季節区別の概況

(ア) 春ねぎの作付面積は3,390haで、前年産に比べて60ha(2%)増加した。

これは、価格が比較的安定しているため、

他野菜からの転換や新規作付け等があったためである。

10a当たり収量は2,540kgで、前年産並みとなった。

この結果、収穫量は8万6,100tで、前年産に比べて1,900t(2%)増加し、出荷量は7万4,600tで、前年産に比べて1,700t(2%)増加した。

(イ) 夏ねぎの作付面積は5,070haで、前年産に比べて120ha(2%)増加した。これは、前年産価格が良かったことから、他野菜等からの転換などがあったためである。

10a当たり収量は1,950kgで、前年産に比べて1%上回った。

この結果、収穫量は9万8,900tで、前年産に比べて3,200t(3%)増加し、出荷量は8万4,400tで、前年産に比べて3,100t(4%)増加した。

(ウ) 秋冬ねぎの作付面積は1万4,500haで、前年産に比べて200ha(1%)増加した。

10a当たり収量は2,240kgで、前年産に比べて2%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は32万5,100tで、前年産に比べて1万200t(3%)増加し、出荷量は24万1,200tで、前年産に比べて9,600t(4%)増加した。

図10 ねぎの作付面積及び収穫量の推移

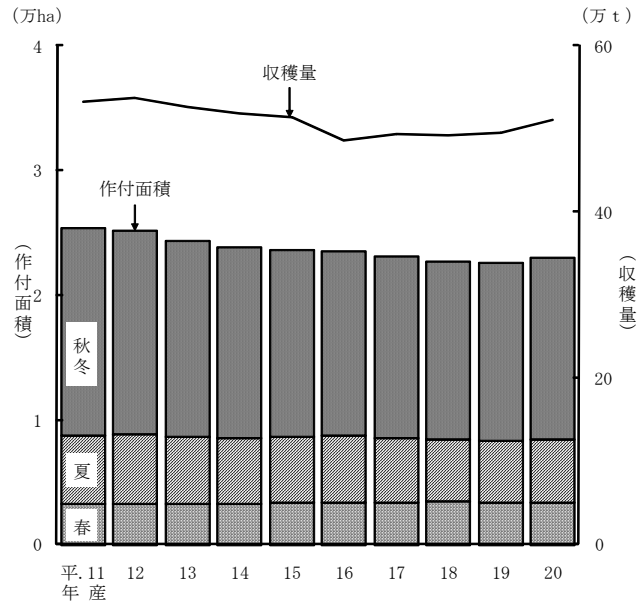


表10 平成20年産ねぎの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	前年産対比(%)				(参考)平均収量対比
					作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	
ねぎ	ha	kg	t	t					%
	23 000	2 220	510 200	400 300	102	101	103	104	103
春	3 390	2 540	86 100	74 600	102	100	102	102	101
夏	5 070	1 950	98 900	84 400	102	101	103	104	100
秋冬	14 500	2 240	325 100	241 200	101	102	103	104	104

(10) たまねぎ

ア 作付面積

作付面積は2万4,100haで、前年産に比べて200ha（1%）減少した。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は5,270kgで、前年産に比べて1%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は127万1,000t、出荷量は112万1,000tで、ともに前年産並みとなった。

図11 たまねぎの作付面積及び収穫量の推移

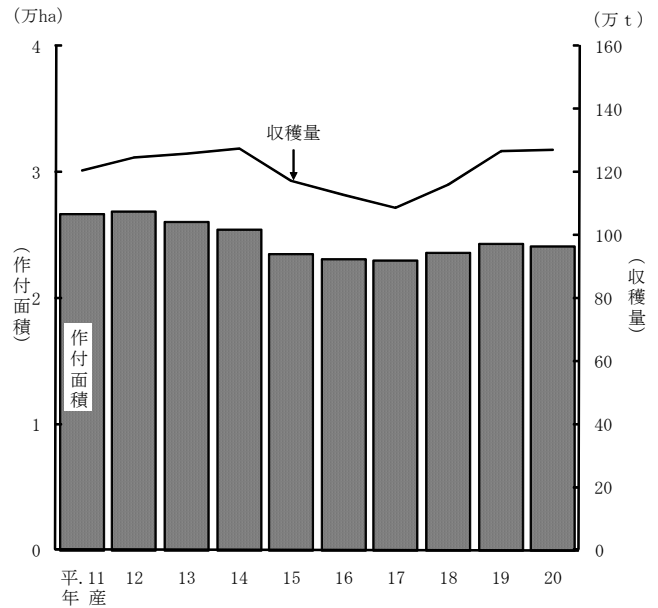


表11 平成20年産たまねぎの作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作付面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量 対 比
					作付面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	
たまねぎ	ha	kg	t	t					%
	24 100	5 270	1 271 000	1 121 000	99	101	100	100	107

(11) きゅうり

ア 作付面積

作付面積は1万2,500haで、前年産に比べて300ha(2%)減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は5,020kgで、前年産並みとなった。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は62万7,400tで、前年産に比べて1万3,600t(2%)減少した。

出荷量は52万7,900tで、前年産に比べて1万1,900t(2%)減少した。

エ 季節区別の概況

(ア) 冬春きゅうりの作付面積は3,240haで、前年産に比べて50ha(2%)減少した。これは、生産者の高齢化に伴う規模縮小等があったためである。

10a当たり収量は10,100kgで、前年産並みとなった。

この結果、収穫量は32万5,700tで、前年産に比べて7,600t(2%)減少し、出荷量は30万2,800tで、前年産に比べて6,500t(2%)減少した。

(イ) 夏秋きゅうりの作付面積は9,270haで、前年産に比べて220ha(2%)減少した。これは、生産者の高齢化に伴う規模縮小等があったためである。

10a当たり収量は3,260kgで、前年産に比べて1%上回った。

この結果、収穫量は30万1,700tで、前年産に比べて6,100t(2%)減少し、出荷量は22万5,100tで、前年産に比べて5,300t(2%)減少した。

図12 きゅうりの作付面積及び収穫量の推移

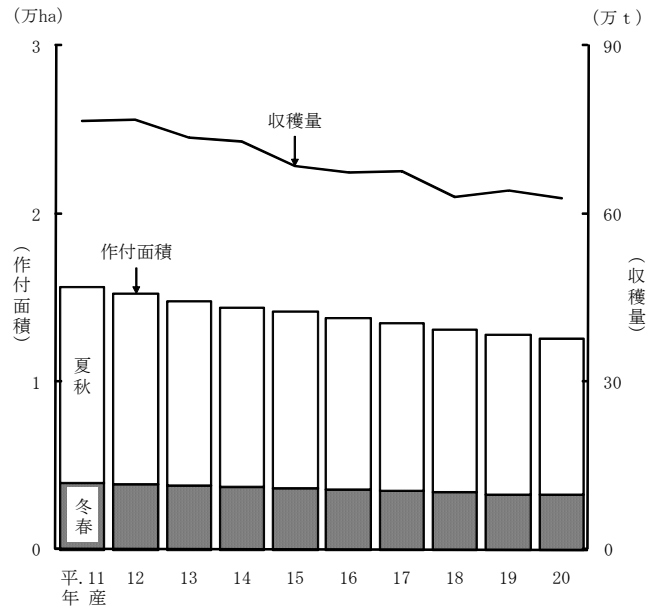


表12 平成20年産きゅうりの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	前年産対比(%)				(参考)平均収量対比
					作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	
きゅうり	ha	kg	t	t					%
	12 500	5 020	627 400	527 900	98	100	98	98	101
冬春	3 240	10 100	325 700	302 800	98	100	98	98	102
夏秋	9 270	3 260	301 700	225 100	98	101	98	98	101

(12) なす

ア 作付面積

作付面積は1万600haで、前年産に比べて200ha（2%）減少した。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は3,450kgで、前年産並みとなった。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は36万5,900tで、前年産に比べて5,900t（2%）減少した。

出荷量は27万3,300tで、前年産に比べて4,800t（2%）減少した。

エ 季節区分別の概況

(ア) 冬春なすの作付面積は1,300haで、前年産に比べて50ha（4%）減少した。これは、生産者の高齢化に伴う規模縮小等があったためである。

10a 当たり収量は10,400kgで、前年産に比べて1%下回った。

この結果、収穫量は13万4,800tで、前年産に比べて7,000t（5%）減少し、出荷量は12万6,800tで、前年産に比べて6,800t（5%）減少した。

(イ) 夏秋なすの作付面積は9,320haで、前年産に比べて150ha（2%）減少した。これは、生産者の高齢化に伴う規模縮小等があったためである。

10a 当たり収量は2,480kgで、前年産に比べて2%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は23万1,000tで、前年産に比べて1,200t（1%）増加し、出荷量は14万6,600tで、前年産に比べて2,100t（1%）増加した。

図13 なすの作付面積及び収穫量の推移

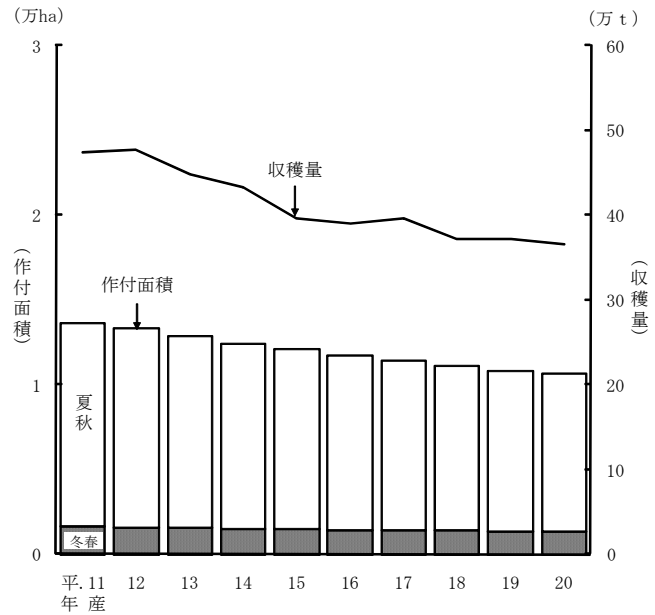


表13 平成20年産なすの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a 当たり収	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量対比
					作付面積	10a 当たり収	収 穫 量	出 荷 量	
なす	ha	kg	t	t					%
なす	10 600	3 450	365 900	273 300	98	100	98	98	101
冬 春	1 300	10 400	134 800	126 800	96	99	95	95	102
夏 秋	9 320	2 480	231 000	146 600	98	102	101	101	101

(13) トマト

ア 作付面積

作付面積は1万2,500haで、前年産に比べて200ha(2%)減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は5,860kgで、前年産に比べて1%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は73万2,800tで、前年産に比べて1万6,400t(2%)減少した。

出荷量は64万8,300tで、前年産に比べて1万5,500t(2%)減少した。

エ 季節区分別の概況

(ア) 冬春トマトの作付面積は4,060haで、前年産に比べて80ha(2%)減少した。これは、生産者の高齢化に伴う規模縮小等があったためである。

10a当たり収量は9,300kgで、前年産に比べて3%下回った。これは、主産地である熊本県において、定植後の天候が高温乾燥で推移し初期生育が抑制されたこと等があったためである。

この結果、収穫量は37万7,500tで、前年産に比べて1万7,900t(5%)減少し、出荷量は35万5,000tで、前年産に比べて1万7,100t(5%)減少した。

(イ) 夏秋トマトの作付面積は8,470haで、前年産に比べて90ha(1%)減少した。

10a当たり収量は4,200kgで、前年産に比べて2%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は35万5,300tで、前年産並みとなり、出荷量は29万3,300tで、前年産に比べて1,600t(1%)増加した。

図14 トマトの作付面積及び収穫量の推移

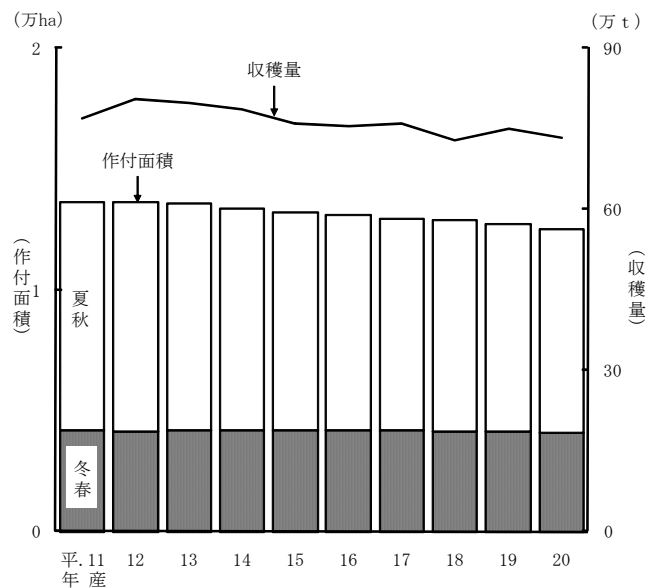


表14 平成20年産トマトの作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作付面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量 対 比
					作付面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	
ト マ ト	ha	kg	t	t					%
	12 500	5 860	732 800	648 300	98	99	98	98	100
冬 春	4 060	9 300	377 500	355 000	98	97	95	95	100
夏 秋	8 470	4 200	355 300	293 300	99	102	100	101	100

(14) ピーマン

ア 作付面積

作付面積は3,460haで、前年産に比べて40ha（1%）減少した。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は4,340kgで、前年産に比べて2%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は15万300tで、前年産並みとなった。

出荷量は12万9,200tで、前年産に比べて900t（1%）増加した。

エ 季節区別の概況

(ア) 冬春ピーマンの作付面積は769haで、前年産に比べて31ha（4%）減少した。これは、生産者の高齢化に伴う規模縮小等があったためである。

10a 当たり収量は9,970kgで、前年産に比べて3%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は7万6,700tで、前年産に比べて600t（1%）減少し、出荷量は7万2,400tで、前年産に比べて400t（1%）減少した。

(イ) 夏秋ピーマンの作付面積は2,690haで、前年産並みとなった。

10a 当たり収量は2,740kgで、前年産に比べて2%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は7万3,700tで、前年産に比べて1,400t（2%）増加し、出荷量は5万6,900tで、前年産に比べて1,500t（3%）増加した。

図15 ピーマンの作付面積及び収穫量の推移

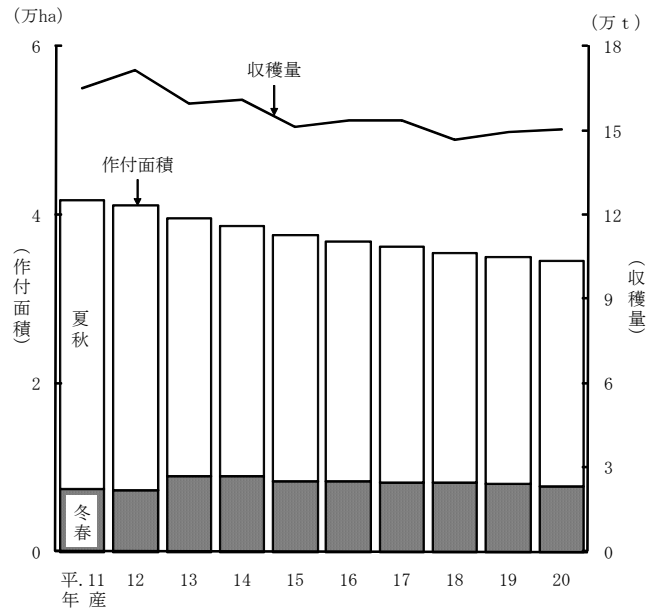


表15 平成20年産ピーマンの作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作付面積	10a 当たり収	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量対比
					作付面積	10a 当たり収	収 穫 量	出 荷 量	
ピーマン	ha	kg	t	t					%
	3 460	4 340	150 300	129 200	99	102	100	101	105
冬 春	769	9 970	76 700	72 400	96	103	99	99	106
夏 秋	2 690	2 740	73 700	56 900	100	102	102	103	105